

まなびいフェスタ 実行委員に聞く！

SPECIAL 特集



三浦 峰子(みうら みねこ)さん
ママサークル「ママンボウ」代表

橋本さんは、一番最初に実行委員へ名乗りを挙げられましたが、そのきっかけを教えてください。

橋本さん：アバンセが大好きで、11年ほど前からアバンセに足を運ぶようになりました。私自身が講師として、ものづくりの講座を何度かアバンセで開催するうちに、いろんなところで、講座やイベントを開催することがやみつきとなりました。もっとアバンセに関わりたい！という強い気持ちから公募に手を挙げました。

藤瀬さんや熊本さんはどんなきっかけですか？

藤瀬さん：私は、山間地出身で結婚後住んだのも三瀬村。里山しか知ら

熊本 由美子(くまもと ゆみこ)さん
H21年度県民講師チャレンジ講座実践者



従来の生涯学習フェスタをリニューアル！
公募の実行委員会が企画運営する
「まなびいフェスタ」として9月7日(土)に開催します。
実行委員として手を挙げていただいた4人のみなさんに
フェスタにかける意気込みをお聞きました。

ず、農家民宿をやっていますが、遠くから来たお客さんや外国の方に、佐賀のことを知らず、うまく伝えることができませんでした。それがアバンセで女性起業家のたまご「つぼみ塾」の交流会や県民講師の養成講座を受講するうちに、自分もステップアップでき、県内のいろんな方と交流ができていくことに気づきました。でも、なかなか活動の場がないので、活動の場づくりができれば…と思い立ちました。

熊本さん：私は、アバンセで県民講師の養成講座を受講してから、かねてより県民講師全体の発展になるような取り組みはできないものかと考えていました。だから実行委員になることはいい機会だと思い、参加しました。

一番若い三浦さんが実行委員長を引き受けようと思われたのは？

三浦さん：「子育て中の母親チャレンジ支援事業」を修了し、立ち上げたママサークル「ママンボウ」も3年目を迎え、他の施設でもママ向けの大きなイベントをやっているの、アバンセでもやってみようと思ったからです。



熊本さんは、実行委員会に参加してよかったことは？

熊本さん：今まで講座の講師を依頼される方だったので、運営する側の舞台裏が垣間見れ、今後の自分の活動において非常に参考になる経験です。また、つながりから活動の場が生まれますので、さらによいつながりができることです。

藤瀬さんは、実行委員としてやってみたくことは？

藤瀬さん：アバンセは自分にとって学びの場所です。アバンセがなかったら、人とつながることもなかったし、人前で話すこともなかったと思います。自分が体験したこのことを



細かい打ち合わせに余念がない。

最後に「まなびいフェスタ」に向けて、意気込みを一言ずつお願いします。

橋本さん：全身全霊を傾けて、楽しい一日にします！自分が楽しんだら、必ず人に伝わると思います。「まなびいフェスタ」に参加して「何か」を感じて、持って帰ってもらいたい！

藤瀬さん：みなさんと一緒に楽しみたいです。人が笑顔になることが大好きなので、「まなびいフェスタ」のテーマである「げんきのもり」を作りあげたい！

熊本さん：主題である「学びのきっかけづくり」がそこかしこにあふれている会場にしたいです。ただのお祭りでは終わらせません！アバンセに足を運ばれたことがない方、縁遠く思っている方もお越しいただけたらと思います。必ずひとつは学べる発見があります！

三浦さん：来場者、出展者が笑顔になることはもちろんですが、新たな発見をしたり、参加者同士のつながりができて、次につながる場づくりを目指しています。元気になれる1日にします！また、参加者や来場者のみなさんが自分らしく輝く場にな



橋本 美津子(はしもと みつこ)さん
ひまわり手芸教室 代表

ると、嬉しいです。

実行委員のみなさん、ありがとうございました。

9月7日(土)の「まなびいフェスタ」で、どんな「げんきのもり」に出会えるか、期待しています♪



藤瀬 みどり(ふじせ みどり)さん
農家民宿「貝座」おかみ

